

第2回(11月2日)八尾翠翔高等学校学校運営協議会

【学校の現状と取り組みについて】

- ・部活動報告…陸上部・軽音楽部など様々な部活動の活躍
- ・生徒会…生徒会生の働きかけにより、携帯使用ルール変更（放課後は携帯の使用OK）
- ・新プロジェクター導入（20個）
- ・新行事の考案など新しいことを行っていく

■課題

- ①入試の倍率確保
- ②合格者の地元率の落ち込み(入試倍率と比例)
- ③合格者の男女比率（女子の比率が低い）⇒女子に選んでもらえる学校を目指す。

■解決策

★新しい取り組みを考えていく⇒学校行事の見直し、宿泊研修の見直し、生活ルールの見直しなど

【学年・分掌進捗状況】

1年：進路変更済み者6名。長欠者はなし。

2年：中学時代がコロナで、なににつけても消極的、活動を行う力不足の面が大きいことが課題。

3年：簡単にあきらめさせないなどの、生徒指導の重点を継続中。

生徒指導部：携帯使用ルールの変化に伴って指導に注意。今のところ携帯使用ルール変更による問題はなく、順調。休日登下校時の服装、昼休みの携帯使用のルールなど考え中。部活動ごとに通学路を清掃する活動を行う予定。

生徒会：行事はスムーズに行われている。生徒の意見を聞きながら様々なルールを検討していく。

進路部：3年学校別入試説明会では、入試に関する話が直接聞けて満足だったよう。

総務部：SNSで活発に発信。HPが新しくなる。さくら連絡網の導入（保護者と学校のスムーズな連絡、迅速な休み連絡などが可能に）

人権推進委員会：いじめはほとんどなし。差別発言が1件⇒早期対応で解決済み。教員にも周知済み。

【委員の方々からの意見】

- ・地域住民の視点：高齢者が多いため、自転車での接触事故をおこさないよう気をつけるように。

通学自転車指導が必要。

⇒生徒指導部：集会で注意・プリント配布など、早めの対策を検討。

- ・HPなどの書き込み：翠翔は風紀に厳しい、生徒指導が行き届いている。ということは地域住民の共通認識。

「翠翔に行けばマナーが良くなる。」だから行かせる。更生させてくれる。という考え。

⇒厳しいことは長所でもある。しかし、女の子は「私服がいい」男の子は「校則がゆるいかどうか」が学校選びの大きなポイントの1つとなっていることも事実。

★緩めるだけでは良いところまでなくなってしまう。今の子どもたちとどう歩み寄っていくかがポイント。

⇒「翠翔は短期勝負で考える必要がある。八尾・柏原の子どものために学校を残していきたい。」

- ・プロジェクターの活用、書かせることも大切。授業よくやってる。この調子で！

・「各コースに定員はあるのか？」⇒教務部「なし。生徒の希望を聞き、コースに分かれる。」

- ・SNSでのいじめなど、見えないところでのいじめなどには注意を。

- ・学校存続のための起爆剤としての即効性のあることでいうと、私服に変えるなど大きな変更が必要。
⇒校長「学校が消えるくらいなら制服を私服に変えることはOK。優先すべきは学校の存続。」
 - ・定員が割れる⇒よほどのことがないと落ちないにもかかわらず入ってこない、選ばれない。
⇒入ってみたいと思える学校になっているかどうか。入って良かったという翠翔生と、学校を選ぶ中学生との間に翠翔への認識の差が。その点を考えていくことが大切。
 - ・SNSなどを積極的に使用していく。⇒市民スポーツ祭のお手伝い、ボランティアなど生徒の活躍の場を増やし、もっと積極的に広報していくべき。広報の仕方をもっといろいろ考える。
- ★誹謗中傷をどうするかよりも、良い情報をどれくらい増やし、発信していくか。ネットで情報収集する子どもたちに向けて、様々な観点のポジティブな情報を発信することでどれか1つでも刺さることを期待して。携帯のルールなど、生徒主体での取り組みをもっと発信していくべき。